

学習評価の基本的な考え方

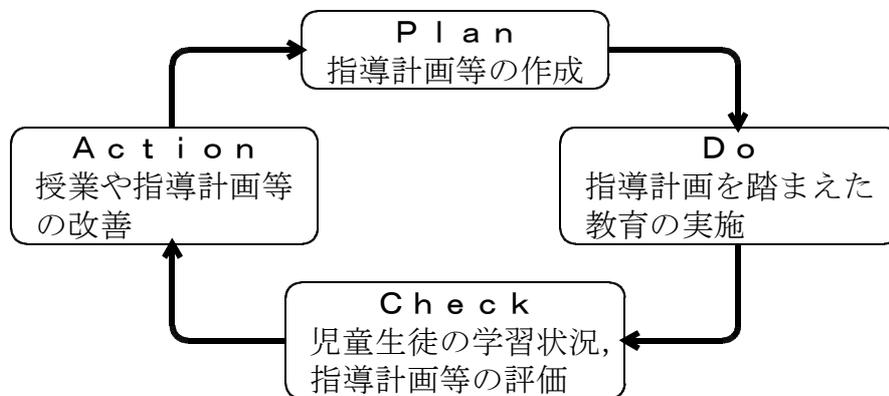
1 学習評価の今後の方向性

(1) 学習評価の現状

- 小・中学校を中心に、現在の学習評価が教師に定着している。
- 教師が負担を感じたり、授業改善に更につなげていく必要があると感じたりする教師が見られるという課題もある。

(2) 学習評価の意義・目的

- 児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有する。
- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要である。
(指導と評価の一体化)
- 学習指導と学習評価のPDCAサイクルは、日常の授業、単元等の指導、学校における教育活動全体等の様々な段階で繰り返されながら展開することが必要である。



- 児童生徒や保護者にとっても、学習評価は重要である。

【児童生徒】

自らの学習状況に気付き、その後の学習や発達・成長が促される契機になる。

【保護者】

家庭における学習を児童生徒に促す契機になる。

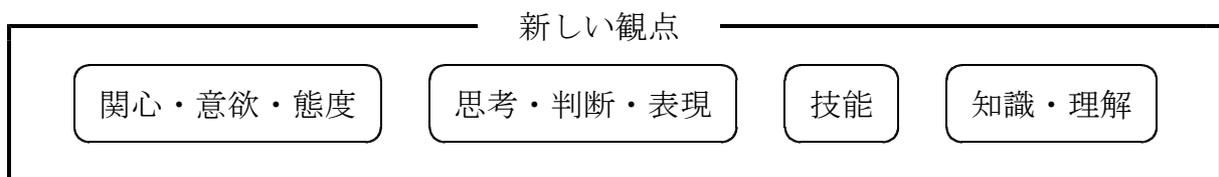
(3) 今回の学習評価の改善に係る3つの基本的な考え方

- 現在行われている学習評価の在り方を基本的に維持しつつ、その深化を図る。
→ 各教科における観点別学習状況の評価と評定については、目標準拠評価として実施（きめ細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着）
- 新学習指導要領における改善事項を反映する。
→ 新学習指導要領で示された学力の3つの要素と評価の観点とを整理
- 教育は、学校、児童生徒の実態に応じて効果的に行われることが重要である。
→ 学校や設置者の創意工夫を生かす、現場主義を重視した学習評価の推進

2 観点別学習状況の評価の在り方

(1) 新学習指導要領を踏まえた観点の設定

- 各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として、「思考・判断・表現」を設定する。
- 従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるために、「技能」に改める。



(2) 学力の3つの要素との整理

- 基礎的・基本的な知識・技能
⇒ 技能 及び 知識・理解 で評価
- 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
⇒ 思考・判断・表現 で評価
- 主体的に学習に取り組む態度
⇒ 関心・意欲・態度 で評価

(3) 各教科における評価の観点に関する考え方

- 各教科の評価の観点は、4観点を基本としつつ、さらに教科の特性に応じて設定

(国語, 外国語)

- 学習指導要領の内容のまとまりに合わせ、「基礎的・基本的な知識・技能」と「思考・判断・表現」を合わせて評価する観点を位置付け
 - ・ 国語：「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」
 - ・ 外国語：「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」

(音楽, 図画工作・美術)

- 芸術に係る表現の能力の評価については、「技能」に関する観点と、表現を創意工夫したり発想・構想したりする能力に関する観点をに分けて評価
 - ・ 音楽：「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」
 - ・ 図画工作・美術：「発想や構想の能力」「創造的な技能」
- 芸術に係る鑑賞の能力の評価については、「知識・理解」に関する観点と、自分なりに評価したり価値を考えたりする能力に関する観点を一体的に評価
 - ・ 音楽：「鑑賞の能力」
 - ・ 図画工作・美術：「鑑賞の能力」